

コミュニケーションとネット文化 ホン・ミオク（韓国）

最近、中学 3 年生の娘の携帯電話を没収しました。原因は学校の成績がとても良くなかったからです。以前から、いつも友達と携帯電話で話している娘のことが気になっていました。友達とのコミュニケーションは重要ですが、この年代の子どもたちにとって、面と向かってのコミュニケーションではなく電話で会話することは、さまざまな誤解を生む可能性があると思います。まだ成熟していない若い学生たちにとって、携帯電話は必ずしも必要なものではないのではないのでしょうか。

インターネットの普及でコミュニケーションの手段が急速に発展しましたが、それに伴う弊害について考えてみました。

私の娘はいつも携帯電話を持ち歩いていて、食事中、自動車に乗って移動する時、歩く時、寝る時に至るまで、携帯電話なしでは不安そうに見えます。そんな中、今回試験の成績がかなり良くない結果となり、とうとう携帯電話を取り上げることにしました。もちろんこれは我が家だけの話ではなく、韓国の他の家庭でも同じ状況です。

いつでもどこでも使用できる携帯電話は、交通事故の原因にもなっています。近年では、スマートフォンの登場で毎月最低 6 万ウォン程度の通信費がかかります。家族全体で計算すれば生活費の多くの部分を通信費が占めることとなり、かなりの出費となっています。さらに、携帯電話やメールでのコミュニケーションにより、家族間の対話の急激な減少、不必要な誤解とゲーム中毒、視力悪化、使用中の交通事故等による他人への損傷、また、安易な逃避、物事を考える機会の減少、対話不足によって、人とのふれあいや関心がなくなるということが心配されます。

そんな私も、やはりある日、出勤途中に携帯電話を忘れたことに気づき、何かあったらどうしようと訳もなく不安になるときがありました。

インターネットの急激な発展に伴い、真のコミュニケーションは断絶している気がします。インターネットでは人間の心は伝えられません。現代社会では、心が通じるコミュニケーションをどのように図るかを考えなければなりません。

いつのまにか私たちの生活環境には公衆電話がほとんど無くなってしまいました。ある日、小学校に通う息子と会う約束をしていました。その日は忙しかったため約束の時間に遅れることになってしまいましたが、携帯電話の充電が無いことに気づき、慌てて公衆電話を探してあちらこちら飛び回った記憶があります。

このように、現代人がいかに携帯電話に頼っているかを発見する場面は多いです。携帯電話の便利さが現代社会にどれだけ貢献したかは、言うまでもあ



△ 電車の中で携帯電話を使用する若者

りません。

しかし、このような言葉があります。「世の中は便利になったが、決して社会が良くなったのではない。」

その通りだと思います。私たちは携帯電話の役割とは何かを改めて考え、必要な場面で使う自制が必要ではないでしょうか。